

(有) 賃貸ルーム

大垣市・不動産業・福祉

平成30年度
認定

不動産業を営む賃貸ルームが運営するグループホームてんじゅでは、希望する職員に職場近くの住まいを斡旋している。物件によっては家賃補助や入居費用の割引を行っており、費用面からも職員の仕事と家庭の両立を支えている。

従業員数／男性8名 女性18名 計26名 ※平成31年1月現在

委員会を設け働きやすさを追求

医療・福祉



職員から委員会に寄せられた提案で設置した物品収容用の棚。日用品をまとめて収容することができ、整理整頓しやすくなった。

2017年の春、業務改善のために7つの委員会（入浴、環境、ケア、給食、レクリエーション、おむつ、医療・感染）を設置した。職員は気になった点を随時提案することができ、委員会の裁量で物品を買うこともできる。高齢の職員から「夜勤時、布団で休むと立ち上がるのがつらい」との声を受けてリクライニング

シートを導入したり、日用品をわかりやすく収納する棚を設置したりと、働きやすい環境づくりのために職員が意見を出し合える風土が根付いている。また、仕事の目標を明確にってもらうとともに不満も言える場を設けようと、キャリアコンサルタント資格を2年前に取得した平野真弓所長による職員面談も年2回ある。

職員の子連れ出勤はいつでも可能で、子どもと入所者が交流する機会にもなっている。台風などで学校が途中で休校になった時は、手の空いている職員が子どもを迎えに行けるよう学校と調整。小学生の長女を迎えに行ってもらったことのある河野志菜子さんは、「おかげで安心して働けている。小学校入学直後の早帰りの期間も娘がグループホームで過ごせて助かった」と話す。地域貢献活動にも力を入れて



グループホームで入所者と塗り絵を楽しむ小学生。子連れ出勤を常時可能にしており、非常時等も子育て中の職員は安心して働くことができる。

おり、大垣市の「さわやかみまもりeye」に登録し入所者と職員は通学路を散歩して、異常があった場合は自治体と連携し学校に報告。過去にはマンホールの穴の異常を見つけたこともある。近くの保育所で認知症サポーター養成講座を行ったり、事業者の枠を超えて地域の介護人材の育成にも尽力している。